

活動報告

ジャパンファウンデーションの各海外ネットワーク拠点から届いた、現地ならではのライブ感にあふれる活動報告をご紹介します。文化芸術交流、海外における日本語教育、日本研究・知的交流の各分野で、それぞれの国々の皆さんとまさにふれあいながら創りあげた、地域色豊かな活動の模様をお伝えします。

ローマ日本文化会館

主な活動

展覧会・公演・講演会の実施
図書館運営と外部照会に対する
日本文化情報提供
日本文化事業の支援
日本語講座運営

ローマ日本文化会館では、近年日本への関心を高めているイタリアでの日本文化紹介の拠点としてさまざまな事業を実施しています。2004年度も、図書館と日本語講座を運営するとともに、現代美術から書道にいたる幅広い分野の展覧会、邦楽やクラシック、

JAZZ、現代音楽などの多彩な公演事業を展開。さらに、日伊交流史、日本の伝統演劇や現代演劇に関する講演会を開催し、現在の日本文化の多様性を紹介する事業を実施しました。また、ローマ市をあげた文化催事「ローマの白夜」に参加し、子供向けの日本紹介ワークショップを開催するなど日本を理解してもらうための取り組みを幅広く行ないました。

また、イタリアでは、地方の小さな街にも日本に関心を持つ人が増えているため、こうした地方での催しに対する協力を強化。本部事業「歌舞伎デモンストレーション」をエミリア・アロマーニャ州のラヴェンナに巡回させ

るなど、生の日本の文化に触れてもらえる機会を設けました。



「ローマの白夜」こどものための折り紙ワークショップ

ケルン日本文化会館

主な活動

展覧会・公演・映画を通じた
文化・芸術交流
日本語講座や在ドイツの
日本語教師支援
講演会・シンポジウムの実施
図書館の運営
日本語教材の制作など、
関連事業への支援

2004年は日独間の文化芸術・知的交流をメインに引き続き積極的な広報活動を展開しました。なかでも新たな親日層を開拓するため、

若者を意識した活動に重点を置きました。

日本語講座に関しては、1コースを半期制に改編してから1年が経過したこともあり、運営体制のシステム化を実施しました。

個々の催しでは、ケルン市の文化機関や日本の国際交流団体などとの共催事業を増やし、広報や経費支出面の効率化を計りました。その結果、ケルンだけでなく近隣諸国や他州からも多数の来場者が訪れ、展覧会の会期延長や映画会での補助席増設といった成功をおさめることができました。

さらに講演会やワークショップ、公演プログラムで入場整理券の事前配布を行なわなく

てはならないほどの活況を呈するほどでした。現在はベルリン日独センター、ゲーテ・インスティトゥートなどとの連携も整いつつあり、2005年の「日本におけるドイツ年」「日EU市民交流年」に向けた準備も始めているところです。



ゴジラ生誕50周年記念講演

パリ日本文化会館

主な活動

「Petite Nature?」展
「JAZZ IN JAPAN 5」5夜連続公演
豊田四郎監督作品特集上映
淡路人形浄瑠璃
(共催:兵庫県パリ事務所)
歌舞伎衣裳展
「J-DANCE」2年連続公演
伊万里展
文化交流使・平野啓一郎講演会
「MIYAZAWA SICKバンド」公演
シンポジウム「文化における日欧交流 / 文化の独自性と多様性」

日本が海外に持つ唯一の総合的文化交流施設であるMCJP(パリ日本文化会館)は、開館7年目を迎えました。事業運営においては、人々の関心を引きたい、大勢の人に来ていただきたいという願いが先行しがちですが、伝統的な催しと現代を表現する企画の均衡にも配慮しなければなりません。そのなかで、常設展示を持たないMCJPとしては、常にテーマ性を重視して企画を練り上げることが最重要課題となります。この観点から催した「伊万里展(2004年秋～翌年春)」は、16世紀の末に日本へ到来した陶工技術を発端に、欧州に大量に出荷されるまでに珍重された磁器が、時を経てマイセン、セーブルの磁器発祥の契

機となる壮大な物語を現物作品の紹介と共に展開。18,400人もの人々が訪れ、絶賛を博しました。2005年には、日本と欧州連合との間で市民交流年の行事が多数行なわれました。



伊万里展(©Clément-Olivier Meylan)